

# 390人受け入れ増やしても494人が入れない

## 待機児解消は認可保育園の増設しかありません



認可保育園に申し込みながら入れなかった子どもは、今年4月1日494人。昨年の488人を上回りました。品川区は大規模開発でマンションを建設、子育て世代を呼び込んでいるためとりわけ深刻です。保育需要の急増に政府と濱野区長は保育園への「詰め込み」を加速しますが、認可保育園を増設しなければ待機児解消はできません。

### 「詰め込み保育」でトイレが足りない

待機児の増加に、区は緊急対策として定員増と定員を超えて受け入れる弾力化で昨年より390人も受け入れ枠を増やしました。保育室や園庭が広くならないのに、子どもの数が1.5倍にふくれあがった乳児クラスや、0〜1歳児1人当たり3.3㎡(畳約2枚)の最低基準すら守れない保育

室もあります。各園でトイレが足りず渋滞が起る事態に。おむつをははずす大事な時期なのに一人ひとりと落ち着いてトイレトレーニングに時間もかけられない。こんな環境で子どもたちは豊かに育つのでしょうか。

### 「子どもはしばらく増え続ける」というなら認可保育園増設を

品川区は保育園増設の要望に対し、「保育需要はい

ずれピークがくる」「認可保育園を増設すると財政負担になる」と認可保育園増設に本腰を入れず、既存施設への詰め込みと民間の認証保育所(都が認めた保育所で、職員配置や施設が国基準以下)の誘致を対策の柱にしています。

しかし、保育専門の大学教授は、保育園を希望する3歳未満児は昨年の100人中24人から7年後には100人中44人に増加すると推計。濱野区長も予算議会施政方針説明で「子どもはしばらく増え続ける」とのべました。

子どもが増え続けるというのなら認可保育園を増設するべきです。品川区は500億円も基金に積み立てながら、財政負担を理由に保育園を増設しないのは許されません。

共産党は希望者すべてに入れるように、保育需要に見合った認可保育園の増設へ全力で頑張ります。

### 住民運動の広がりと共に 共産党の粘り強い追求で認可園が実現

認可保育園増設は、区議会に請願が1年間に5件も提出されるほど切実です。これまで住民運動と共産党の取り組みが認可保育園3か所、幼保一体施設(幼稚園に0〜3歳児の認可園を併設した施設)3か所の増設を実現させました。

6月の区議会文教委員会でも、共産党は認可保育園増設を求める請願に賛成して奮闘。一方、自民党は「10年・20年後を考えると認可保育園ありきの対策でいいのか」、無所属の会は「(保育園建設は)お金がかかる」と主張して請願に反対しました。

### 494人が入れなかったのに、 「待機児66人」とは？

4月1日時点で認可保育園に入れなかった子どもは494人。ところが、品川区は「待機児は66人」と発表しています。区は、保育園に入れず親が仕事をあきらめたり、しかたなく認証保育園などに入った子どもを待機児の数から除いているのです。

希望しながら入れなかった子どもの人数でなく、現在、申し込んでいる子どもだけを待機児というのは、そもそも「入れない」事態を解決する姿勢が問われます。

## 日本共産党

### 高齢者の医療費軽減

日本共産党は6月議会に、高齢者医療入院時負担軽減支援金支給条例を提案しました。今回で3回目です。自民、公明、民主は反対しましたが、高齢者の医療費軽減を実施している自治体は次々と広がっています。

都内でも日の出町は昨年4月から75歳以上の医療費を無料化。さらに年齢に関わらず、がん治療費は無料にする方針

### 品川でもぜひ

です。23区では千代田区、新宿区、中野区で高齢者の入院時医療費軽減(入院時に月1万円〜3万円を支給)を開始。三多摩では同様の制度を三鷹市、国立市、東大和市などで実施しています。

共産党は子どもの医療費無料に続いて、高齢者の医療費無料の実現を目指します。